

【研究ノート】

ドイツにおける筆記体の変遷と手書き文字に求められる役割 —初等学校の書字教育を参考に—

深井里奈子

Rinako Fukai

1、はじめに

現在では、文字を介する伝達といえば手紙ではなくパソコンやスマートフォン等電子機器によるものが主流である。そのようなデジタル化社会において、ドイツでは書字教育の意義をどのように捉えれば良いのかが問題となっている。例えばドイツの新聞、Die Welt のオンライン版では近年、『Eigene Handschrift (自分自身の手書き文字)』¹⁾、『Schule muss Handschrift vermitteln (学校は手書き文字を教えなければならない)』²⁾、

『Schreibschrift stirbt aus (消えていく筆記体)』³⁾などの見出しが躍り、教育に限らず文字の根本的な意義を問い直すような記事まで多く見られる。これまでは基本となる筆記体を初等教育の中で習得することが一般的であったが、今後活字体との視覚的関連性を重要視しブロック体に重点を置いていくべきであるといった意見や、それぞれの手書き文字を個性の表れと捉えて伸ばしていくべきといった意見が挙げられ、「個人の手書き文字」といった表現⁴⁾がよく見られる。近年では基本書体と呼ばれる、ブロック体と筆記体両方の要素を持つ学校書体が生み出され、それを採用する学校も出てきた。

一方、フィンランドにおいては2016年秋から子供達の手書き文字の学習が義務ではなくなるという。膨大な時間を要する手書き文字教育を廃止し、その時間をiPadやコンピューターのタイピングなど、IT関連の能力向上のために充てるという試みである。⁵⁾

本稿では世界的に広がるであろうこの問題を受けて、ドイツにおける筆記体の歴史と書字教育を概観しながら、手書き文字に求められる意義や役割について、特に「個人の手書き文字」の観点から考えたい。

なお、本稿において使用する言葉の定義は以下の通りである。

- ・手書き文字 (Handschrift) : 手で書いた文字全般。筆記体を含めた大きな概念。
- ・筆記体 (Schreibschrift) : それぞれを繋げて書いた文字。
- ・学校書体 (Schulschrift) : 初等学校で習う書体。ブロック体と筆記体の両方を含む。

¹⁾ 2015年3月17日〈<http://www.welt.de/138479945>〉(最終閲覧日2015年12月2日)

²⁾ 2015年4月1日〈<http://www.welt.de/138991139>〉(最終閲覧日2015年12月2日)

³⁾ 2015年4月20日〈<http://www.welt.de/139790120>〉(最終閲覧日2015年12月2日)

⁴⁾ eigene Handschrift, individuelle Handschrift, persönliche Handschrift など

⁵⁾ 2015年1月15日〈<http://www.welt.de/136343117>〉(最終閲覧日2015年12月6日)

- ・ **基礎筆記体 (Ausgangsschrift)** : 初等学校で最初に学習する筆記体。
- ・ **活字体 (Druckschrift)** : 印刷用の書体。
- ・ **ブロック体 (Blockschrift)** :
活字体をベースにした手書き書体。日本と同様に、ドイツにおいても活字体、ブロック体の区別をせず、どちらも Druckschrift と表記する場合も多いが、本稿においては便宜上別の概念として使用する。
- ・ **ドイツ字体⁶⁾ (Deutsche Schrift)** :
日本においてはフラクトゥアのみをドイツ字体としたり、ドイツと関連の強いゴシック体 (Fraktur、Textur、Schwabacher など) 全てをドイツ字体としたりする場合があるが、本稿ではドイツにおける Deutsche Schrift に近い感覚でを使用することとする。つまり上記のゴシック体、ドイツ活字体に加え、それをベースにしたドイツ筆記体も含めてドイツ字体とする。
- ・ **ラテン字体 (Lateinische Schrift)** :
アンティカ体⁷⁾とほとんど同様の意味だが、本稿ではドイツ語の文献における主な使われ方に従い、アンティカ体はドイツ活字体に対立するもの、ラテン字体は活字体、筆記体を含めた、特に近年の書字教育においてドイツ字体に対立するものとして使用する。

また、それぞれの書体名については、日本語表記が多様で統一されていないのが現状であるため、本稿では筆者の判断により、カタカナ表記はより原語の発音に近いもの、訳された語はより原語の意味に近いもの、または本稿の目的により合ったものを用いることとする。

2、ドイツにおける筆記体の歴史

文字は時代を追うごとに変化する。意識的に生み出される書体もあれば、筆記具の変化や文化的背景によって自然と変化し、書体として扱われるに至ったものもある。ドイツの筆記体においても例外ではない。ここでは、近年におけるドイツ特有の書体をいくつか挙げ、それぞれの時代における書字教育の目的や役割を明らかにしたい。

⁶⁾ 「ドイツ文字」という表現の方が一般的ではあるが、「ラテン字体」と対になる関係性を明確にするため、本稿では『独和大辞典』p. 2826 において使用されている「ドイツ字体」という表現を採用した。

⁷⁾ ゴシック体を批判するイタリアの人文主義者達によって 15 世紀の初め頃開発された書体であり、現在よく使われているローマン体のもととなった。ユマニスト丸字体(ロンド)とも呼ばれる。古代ローマ時代の価値観を最も良く表す書体としてカロリング小文字体を見直し、明快で簡素なこの書体を作った。

フラクトゥーア (Fraktur)

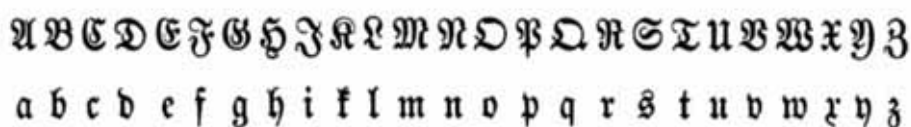


図 1

フラクトゥーア⁸⁾

日本では「ひげ文字」や「亀の甲文字」などと呼ばれるゴシック体⁹⁾の一種。1941 年までドイツの正式な標準書体として親しまれていたため、日本で「ドイツ字体」(あるいは「ドイツ文字」)というところの書体を指す場合が多い。

その開発には神聖ローマ皇帝マキシミリアン 1 世 (Maximilian I 1459–1519) が大きく関わっていたとされ、彼の秘書で能筆家でもあるヴィンツェンツ・ロックナー (Vinzenz Rockner 15 世紀頃) か、あるいはベネディクト修道会で写本の仕事を任されていた修道士レオンハルト・ヴァーグナー (Leonhard Wagner 1453–1522) がフラクトゥーアをデザインしたとする説が有力である。¹⁰⁾

19 世紀から 20 世紀前半にかけてはフラクトゥーアとアンティカ体をめぐる論争が盛んに行われた。フラクトゥーア陣営が文字の芸術性を強調し、「ドイツ性の表象」や「ドイツ語を包む衣」といった言葉でフラクトゥーアの優位を根拠づけようとしたのに対し¹¹⁾、アンティカ体陣営の主張は文字の有用性であり、効率性、スピード、教育問題や視力への影響などの観点からフラクトゥーアを攻撃した。¹²⁾ 読みの問題からすでにこの頃教育の場での文字について議論されていたことがわかる。

フラクトゥーアは「ドイツ特有の文字」であるとして一時期ナチスによって推奨されていた。しかし 1941 年 1 月 3 日、一転して禁止されることとなる。表向きには「ゴシック体はユダヤ人の文字」であることが理由とされたが、実際は占領下の地域の人々との伝達がいまいきかなかったことや現代的に振舞いたかったこと、また国外で接収した活字や印刷機を使いたかったことなどの理由があったとされている。¹³⁾ 同年 9 月 1 日には、後述するフラクトゥーアを基礎とした筆記体、ジュッターリン体までもが禁止され、子供達にはアンティカ体をベースとしたドイツ標準書体が教えられることとなる。

しかしその後もフラクトゥーアは消え去ることはなかった。現在、もはやドイツ人であってもジュッターリン体を読み書きできる人は少ないが、フラクトゥーアについてはドイ

⁸⁾ Soennecken, 1881, S. 7

⁹⁾ ここではその黒味の強さからブラックレターとも呼ばれる欧文活字書体を指し、日本のフォントの一種であるゴシック体とは区別する。1070 年頃からペン先が斜めに切られるようになり、カロリング小文字体の形が変化することでゴシック体が生まれた。書く時間の短縮や紙の節約といった目的から、文字間の間隔が狭く、文字自体も圧縮されている点などが特徴である。

¹⁰⁾ Kapr, 1993, S. 32

¹¹⁾ 遠藤浩介, 2010, p. 96

¹²⁾ Soennecken, 1881, S. 46

¹³⁾ “Das Fraktur-Verbot“, schreibereien.de (<http://www.schreibereien.de/schriftgeschichte/fraktur-verbot.html>)

ツの伝統を表す書体としてビールのラベルやレストランの看板などに使われている。その一方で、廃止以前にナチスによるプロパガンダのための印刷物などでこの書体が多く使われたことから、フラクトゥアはナチスの書体であるという批判的な意見も見られる。フラクトゥアというひとつの書体をめぐって、ドイツでは葛藤が生じているのである。¹⁴⁾

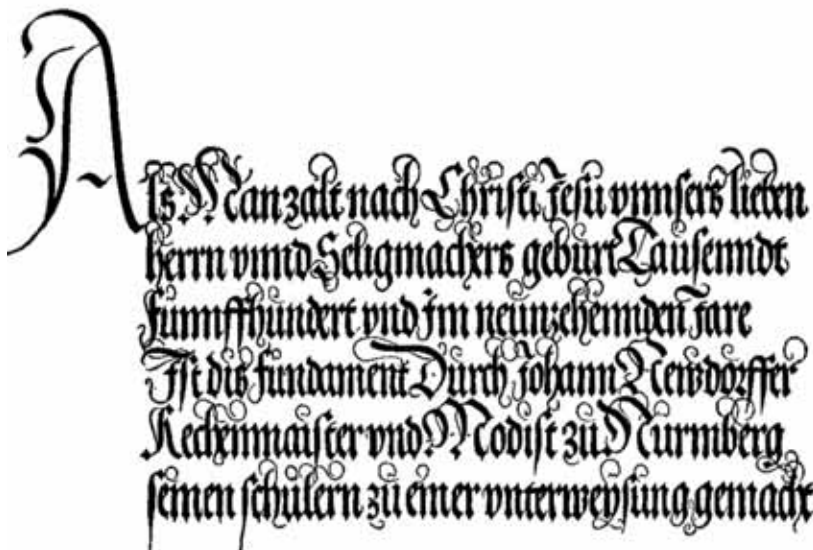


図2 ノイデルファーによる初期のフラクトゥア（1519年）¹⁵⁾

クレント体（Deutsche Kurrentschrift）



図3 クレント体¹⁶⁾



ラテン語の *currere* (=laufen、走る) に由来した名前で、当時の尚書院体（Kanzleischrift）¹⁷⁾から発展した、その名の通り素早く書くための筆記体。その成立には、計算や書き方を教えていたヨハン・ノイデルファー（Johann Neudörffer der Ältere 1497–1563）が関

¹⁴⁾ 詳細についてはドイツのフォントメーカーFontShopによるブログの記事「Fraktur ist (auch) eine Nazi-Schrift」〈<http://www.fontshop.de/fontblog/fraktur-ist-auch-eine-nazi-schrift/>〉や[Kapr, 1993, SS. 101–104]を参照のこと。

¹⁵⁾ Kapr, 1993, S. 50

¹⁶⁾ “Geschichte“, Grundschrift-Schreibschrift: Verlust oder Gewinn? 〈<http://grundschrift-schreibschrift.de/geschichte/>〉

¹⁷⁾ 重要文書を書くために用いられた書体。

わっていたとされるが、後のドイツにおける手書き文字の発展に大きな影響を与えた、教え子のヴォルフガング・フッガー (Wolfgang Fugger 1519/20–1568) はクレント体について次のように述べている。「“クレント体“と呼ばれる一般的な手書き文字には様々なものがある。他の文字に比べて手で素早く簡単に書くことができるためそう呼ばれる。」¹⁸⁾

フラクトゥアをベースにしており、尖っていて筆圧の変化による線の強弱がある。丸みを帯びた「アンティカ草書体 (Humanistische Kursive)」(ユマニスト草書体とも呼ばれる。) ¹⁹⁾の流通によって廃れるが、ドイツ語圏でのみドイツ語にはクレント体、外国語にはユマニスト草書体と使い分けがなされ、2種類の筆記体が同時に使用されることとなった。²⁰⁾



図4 フッガーによる4種類のクレント体 (1543年)

¹⁸⁾ Kapr, 1993, S. 52

¹⁹⁾ アンティカ体とフィレンツェ風ゴシック草書体から生まれた書体。15～16世紀に主に教皇庁尚書院発行の小勅書や外交文書に用いられた。1420年の少し前頃に最初の例が見られる。アンティカ体成立に大きな役割を果たした人文主義者、ニコロ・ニコリ (Niccolò Niccoli 1364頃–1437) がこの書体の成立にも関わったとされる。[ローラン・プリューゴート, 2007, p. 24]

²⁰⁾ “Die Schreibrschrift“, Freude der deutschen Kurrentschrift <http://www.deutsche-kurrentschrift.de/index.php?s=schriftgeschichte_antiqua_8>

ジュッターリン体 (Sütterlinschrift)



図 5 ジュッターリン体²¹⁾

クレント体をベースにした筆記体。工芸家で教育学者でもあるルートヴィヒ・ジュッターリン (Ludwig Sütterlin 1865–1917) によって作成され、1914 年からナチスによって廃止される 1941 年までドイツの学校で教えられていた。初めはベルリンのいくつかの学校に導入され、1924 年にはプロイセン州全体で義務化された。他の州もこれに続き、1930 年頃にはドイツ全土で主にジュッターリン

体が教えられることとなった。²²⁾

それまで手書きによる文字は羽ペンや竹ペンで書かれていたが、19 世紀初めにイギリスから先端の尖った金属製のつけペンが流入した。アセンダー、ディセNDER²³⁾が大きく、複雑な手の動きを要するクレント体をこのつけペンで書くことは初級の書字学習者にとって困難であったため、ジュッターリンは解決策として、手書き文字の基礎という役割のみを目的としているこのジュッターリン体を開発することとなった。²⁴⁾

クレント体と違い、運筆に強弱を必要とせず、文字自体も直立している。ラテンアルファベットを書く際の基準となるラインも、基本的には 1:1:1 の比率になっているため、クレント体に比べて単純である。一方、小さな間違いで全く別の文字や単語になってしまうこともあるため、書き方を正確に学習しなければならないという難しさもある。例えば次

²¹⁾ Bartnitzky, 2005, S. 4

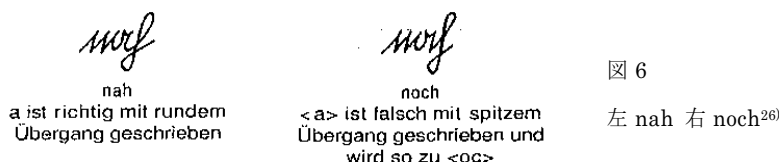
²²⁾ Bär, Anselm S., 1999, S. 242

²³⁾ 小文字 x の高さであるエクソハイトの上の線をミーンライン、下の線をベースラインと言い、アセンダーはミーンラインより高い部分、ディセNDERはベースラインより下の部分を指す。(図 アイデア編集部, 2013, p. x)



²⁴⁾ Harald Süß: "Deutsche Schreibschrift: Was ist das?", Bund für deutsche Schrift und Sprache e.V. (<http://www.bfds.de/bfds.php?s=schriftgeschichte2>)

の例では、「nah」という単語の場合、a から h への運筆を尖らせて書いてしまうだけで「noch」という別の単語になってしまうことが示されている。²⁵⁾



また、ジュッターリン体は日常で使う書体ではなく取っ掛かりのための文字 (Einstiegsschrift) としてデザインされたため、堅苦しく芸術的ではないと批判されることもあるのだが²⁷⁾、この Einstiegsschrift という単語は、ジュッターリン体を基準として自分自身の文字に発展させていくことを意味しており、この頃すでに手書き文字に現れる個性という観点から書字学習の役割が問われていたことがわかる。

ドイツ標準書体 (Deutsche Normalschrift)



図 7 ドイツ標準書体²⁸⁾

1941 年 9 月のジュッターリン体禁止と同時に、ナチスによって制定された筆記体。ジュッターリンによるラテン字体²⁹⁾をベースに作られた。

科学・教育・文化省による当時の報告書には、この標準書体制定に際し、授業に関する指示が 5 つの項目に分けて細かく記載されている。その 1 項目目によると、「書字学習の目的は、それによって各々の個性を表す手書き文字を獲得することも可能となる、自然ではっきりとし

た文字をすらすらと書けるようになることである」³⁰⁾という。つまりここでも、子供達が成長するにつれ自分に合った方法で字の書き方を変えていくことが前提とされていたので

²⁵⁾ Rollig, 2005, S. 18

²⁶⁾ Rollig, 2005, S. 18

²⁷⁾ 同上

²⁸⁾ Reichministerium für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung, S. 333

²⁹⁾ ジュッターリンはドイツ字体のみではなく、ラテン字体の学校書体もデザインした。ドイツ字体同様直立しているが、小文字に目立つ尖った運筆はなく、丸みを帯びている。

³⁰⁾ Reichministerium für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung, S. 332

ある。標準書体はその「個人の手書き文字」のための基準になると見なされていたと言える。

また、この報告書に掲載された教育省の役人ヴィルヘルム・ティース（Willhelm Thies 生没年不詳）による論説「国民学校における書字の授業（Schreibunterricht in der Volksschule.）」³¹⁾では、文字そのものや書字学習が特に読みとの関連で論じられていた。読みの授業において、ドイツ字体の筆記体で書かれたものについては断念されるが、フラクトゥアで印刷された本については、すでに流通しているものが多くあるという理由からすらすら読めるようになることが求められるため、ドイツ字体から標準書体への移行期間には差し当たり 2、3 年生にフラクトゥアの読み方が教えられることなどが述べられている。³²⁾ 標準書体自体についても、「読むことから書くことへの移行が円滑になるよう、手書き文字はできる限り活字体に近い形でなければならない」³³⁾とあり、読むことと書くことの繋がりを重要視していたことがわかる。さらにティースは標準書体の長所として、素早く書いても明瞭な点を挙げている。

3、現在の基礎筆記体

現在、ドイツでは基本的に、まずブロック体を学んでから筆記体の学習に移行する。近年では主に、以下の 3 種類の基礎筆記体が学ばれている。

ラテン基礎筆記体（Lateinische Ausgangsschrift LA）



図 8 ラテン基礎筆記体³⁴⁾

ドイツ標準書体における丸みを帯びた形やデックシュトリッヒ（Deckstrich）³⁵⁾などが原因で子供達の文字の形が崩れているとしてイゼルローン書体サークル（Iserlohner Schreibkreis）が開発し³⁶⁾、1953 年 11 月 4 日文化大臣の公布により、当時の西ドイツ全

³¹⁾ Reichministerium für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung, SS. 342–345

³²⁾ 同上, S. 334, S. 342

³³⁾ 同上, S. 345

³⁴⁾ Bartnitzky, 2005, S. 4

³⁵⁾ 方向転換や前後の文字の連結により 2 重になる、文字の書き出しの部分。日本語の適切な訳語がないため、ドイツ語をそのまま使用する。

³⁶⁾ Lüll, 2012, S. 16

ての州で基礎筆記体として学校で教えることが義務付けられた。空中における筆の動きをそのまま可視化しているため、円を描くように方向転換することが多く、小文字には書き出しの線が付いており、ブロック体と比べるとまだ装飾的な点が特徴である。文字構造と運動構造が非同時的で、スムーズな書字運動を妨げるため³⁷⁾、発音と書き方の関係性をぼやけさせてしまうなどの批判を受けた。³⁸⁾

学校基礎筆記体 (Schulausgangsschrift SAS)

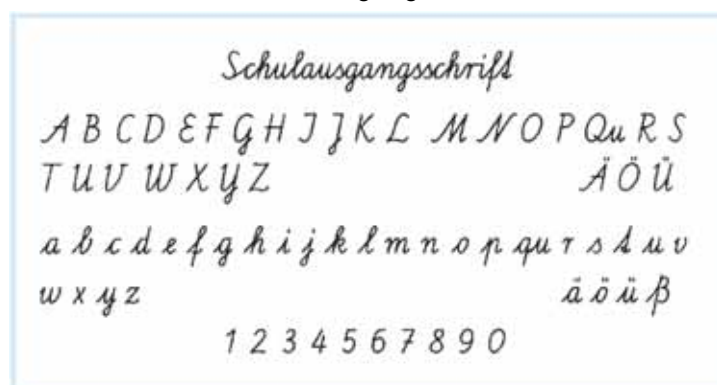


図 9 学校基礎筆記体³⁹⁾

1968 年、東ドイツの一般教育総合技術学校 (Allgemeinbildende polytechnische Oberschule) に導入されたものが SAS の始まりである。カリグラファーであるレナーテ・トースト (Renate Tost 1937-) と東ドイツの教員養成専門学校で文字の教授法を研究していたエリザベス・ケストナー (Elisabeth Kaestner 生没年不詳) が LA を見直し、より簡潔で書きやすくした。小文字は LA に似ていて書き出しの線も残っているが、デックシュトリッヒがより減っている。特に x、t、ß において LA との違いが見られる。x は方向転換を省くことでブロック体に近い形となり、t では横線の代わりにカーブを描いて旋回し、右に抜ける形となった。ß は縦線を尖らせることで、素早く安定した形が書けるようになった。⁴⁰⁾

³⁷⁾ Rollig, 2005, S. 21

³⁸⁾ Hofmann, 2007, S. 4

³⁹⁾ Bartnitzky, 2005, S. 4

⁴⁰⁾ Hofmann, 2007, S. 6

簡易基礎筆記体 (Vereinfachte Ausgangsschrift VA)



図 10 簡易基礎筆記体⁴¹⁾

LA の短所を克服するため、装飾性を減らし簡潔にした書体。1973 年から導入されている。よりブロック体に近い形となった。小文字には LA や SAS に見られるような書き出しの線がなく、基本の形と、ほとんどの文字の開始地点となるミーンライン⁴²⁾へ繋がる線で構成されている。この連結のシステム化によって、それぞれの文字をモジュール式に繋ぎ合わせることが可能となり、LA に見られた文字構造と運動構造の非同時性も克服されている。また、方向転換やデックシュトリッヒも LA と比べて著しく減っている。⁴³⁾

4、筆記体をめぐる論点と批判

LA はドイツ標準書体の短所を、SAS と VA は LA の短所を克服しようとしたように、それぞれの基礎筆記体はそれまで教えられていたものの問題点を改善しようとする動きの中で作られた。その問題点は、子供にとっての書きやすさや書字速度、読みとの関係性などの視点から論じられたが、筆記体そのものの学習は自明の前提として認識されていた。しかし現在デジタル化の流れを受けて、特に文字に現れる個性の重要性という点により重点を置いて論じられ、筆記体学習そのものの意義が問われている。

⁴¹⁾ Bartnitzky, 2005, S. 4

⁴²⁾ 小文字 x の高さであるエックスハイトの上の線。

⁴³⁾ Lüll, 2012, S. 20

基本書体 (Grundschrift)



図 11 基本書体⁴⁴⁾

そのような状況の中で作られたのが基本書体と呼ばれるブロック体である。ブロック体を学んでから LA, SAS あるいは VA を学ぶという現状を受けて、「子供達はいったいくつの書体を学ぶ必要があるのか」という問いに端を発し、初等学校連盟 (Grundschulverband) が 2005 年に開発

し、2011 年から一部の学校が試行している。⁴⁵⁾ 子供達は学校に入学する前から文字に触れている。そしてそれはほとんどの場合活字であり、活字の影響を受けてすでにそれぞれの文字を。初等学校連盟による Web サイトでは、基本書体について次のように説明している。

基本書体はブロック体である。

- ・学校で一般的に教えられているブロック体 (Druckschrift) の形に基づいてその方向性が決められている。

- ・そして子供の書字運動の能力に適している。

子供達は彼らの手で文字を動きの中に取り込む。そのため、基本書体は「印刷 (gedruckt)」⁴⁶⁾されるのではなく、スムーズな動きのもとで書かれる。

基本書体は筆記体である。

- ・何故なら手で書かれた文字であるから。

- ・そして、それを書くことで子供は何かを伝えるから。

⁴⁴⁾ “Einführung“, Grundschrift-Schreibschrift: Verlust oder Gewinn? (<http://grundschrift-schreibschrift.de/>)

⁴⁵⁾ Bartnitzky, Horst und Hecker, Ulrich: “Mit der Grundschrift zur individuellen Handschrift“, Grundschrift damit Kinder besser schreiben lernen (<http://www.die-grundschrift.de/konzept/warum-und-wie/>)

⁴⁶⁾ はじめに本稿では「Druckschrift」という表記がされていてもそれが指す概念によっては「ブロック体」と訳すことを定義したが、この文章においては原文でブロック体を「Druckschrift」としていることから、「印刷される (gedruckt)」のではなく「書かれる (geschrieben)」文字であるという説明をすることによって、一般的な「Druckschrift」の認識とは一線を画すということを主張しようとしている。

このため、フリッツ・ベアマン⁴⁷⁾が 1960 年代末に述べた文字についての伝統的な定義「文字は書類上に表れる筆記具の足跡であり、記録上の整理とコミュニケーションの目的によって生み出され、伝承された記号であり、人の手の動きによって形作られる。」に対応する。⁴⁸⁾

つまり、形が崩れないという点ではブロック体、機能の面では筆記体という、両方の要素を持った子供の手のための書体であると主張している。⁴⁹⁾

さらに、この基本書体もまた「個人の手書き文字」に発展させていく出発点としての役割を目的として開発された。この点について初等学校連盟は以下のように述べている。

基本書体は、子供達からあらかじめ決められた筆記体による無用の回り道を省き、教師、子供達の注意を、共に個人の手書き文字を発達させること、それをよりスムーズに、そして他人にとっても常に読みやすい文字を書くことに始めから向けさせる。⁵⁰⁾

このことから、初等学校連盟はこれまで教えられてきた基礎筆記体という決められた様式そのものが「個人の手書き文字」の発達を妨げているとして、筆記体教育を批判していることがわかる。そして、その「回り道」を避けうる手段として生み出されたのが基本書体なのである。

5、さいごに

本稿ではドイツにおける書字教育を概観し、歴史的な変遷をまとめ、手書き文字に表れる個性の重要性をどう捉えるかといったことが近年では特に問題とされていることを述べた。

今後の研究では手書き文字をめぐる問題（例えば「読み」の教育や身体の運動機能などとの関係性、筆跡学の観点から等）についてさらに詳しく調査し、筆記体（草書や行書等）を学校で学習することが義務付けられていない日本における書字教育や、必ずしも実用性という目的を持たない習字の授業とも比較することで、ドイツにおいて書字教育が求められている役割について様々な観点から明らかにしていきたい。

⁴⁷⁾ フリッツ・ベアマン (Fritz Bärmann 1913–2010) は国民学校で教師を務めてからヴッパータール教育大学の教授となった。特に初等学校算数や書字教育などを専門としていた。

⁴⁸⁾ Hecker, Ulrich: “Ein Ende der Begriffsverwirrung um Schrift und Schreiben!“, Grundschrift damit Kinder besser schreiben lernen (http://www.die-grundschrift.de/startseite/projektgruppe/klarung-der-begriffe/)

⁴⁹⁾ 同上

⁵⁰⁾ 同上

参考文献

ドイツ語文献

・ Bär, Anselm S.: “Ludwig Sütterlin - Bekannt und doch vergessen“, Bund für deutsche Schrift und Sprache e. V.: *Die deutsche Schrift*, Folge 131, Heft 3, 1999, S. 242

参照: Internet Archive 2007 年 9 月 28 日

〈https://web.archive.org/web/20070928125930/http://www.e-welt.net/bfds_2003/veroeff/archiv/3-1999b.htm〉(最終閲覧日 2015 年 12 月 29 日)

・ Bartnitzky, Horst: *Welche Schreibrschrift passt am besten zum Grundschulunterricht heute?* In: *Grundschule aktuell*, Heft 91, 2005, SS. 3-12

・ Hofmann, Jens: *Kritik bekannter deutscher Schreibrschriften*, Norderstedt, GRIN Verlag, 2007

・ Kapr, Albert: *Fraktur: Form und Geschichte der gebrochenen Schriften*, Mainz, Verlag Hermann Schmidt, 1993

・ Lüll, Svenja: *Schreibrschrift oder »Druckschrift«?: Welche Schrift soll die Schule lehren?*, Norderstedt, GRIN Verlag, 2012

・ Reichministerium für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung: *Deutsche Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung - 7. 1941*, Berlin, Zentralverlag der NSDAP, 1941

参照: Bibliothek für Bildungsgeschichtliche Forschung

〈http://goobiweb.bbf.dipf.de/viewer/image/ZDB991084217_0007/1/LOG_0003/〉(最終閲覧日 2015 年 12 月 16 日)

・ Rollig, Andrea: *Die Entwicklung der Schreibrschrift in Deutschland*, Norderstedt, GRIN Verlag, 2005

・ Schorch, Günther: *Schreibenlernen und Schriftspracherwerb*, 3. Auflage, Bad Heilbrunn, Verlag Julius Klinkhardt, 1995

・ Soennecken, Friedrich: *Das deutsche schriftwesen und die Notwendigkeit seiner Reform*, Bonn/Leipzig, 1881

・ Spitta, Gudrun: *Von der Druckschrift zur Schreibrschrift: Entdeckendes Schreibenlernen: Schreibenlernen mit Druckschrift: Übergänge zur Schreibrschrift*, Frankfurt am Main, Scriptor Verlag, 1988

日本語文献

・ アイデア編集部編『ABCのみほん：かたちで見分けるフォントガイド』誠文堂新光社, 2013

・ 遠藤浩介「文字と絵のあいだ：フラクトゥーア・アンティカ論争における文字の視覚性をめぐるディスクール」学習院大学『研究年報』第 56 号, 2010 年 3 月, pp. 93-116.

・ ローラン・プリュエーゴート (南條郁子訳)『アルファベットの事典』創元社, 2007

・ 国松孝二編『独和大辞典』第 2 版, 小学館, 1998

Web サイト

- Bund für deutsche Schrift und Sprache e.V.
〈<http://www.bfds.de/>〉（最終閲覧日 2015 年 12 月 2 日）
- Freude der deutschen Kurrentschrift
〈<http://www.deutsche-kurrentschrift.de/>〉（最終閲覧日 2015 年 12 月 2 日）
- Grundschrift damit Kinder besser schreiben lernen
〈<http://www.die-grundschrift.de/>〉（最終閲覧日 2016 年 1 月 22 日）
- Grundschrift·Schreibschrift·Verlust oder Gewinn?
〈<http://grundschrift-schreibschrift.de/>〉（最終閲覧日 2016 年 1 月 22 日）
- schreibereien.de
〈<http://www.schreibereien.de/>〉（最終閲覧日 2015 年 12 月 2 日）